

平成28年5月17日

我が国の推薦資産に係る世界遺産委員会諮問機関による 評価結果及び勧告について

今般、我が国を含む7か国（※）が世界文化遺産へ共同推薦を行っている「ル・コルビュジエの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」（国立西洋美術館を含む）について、ユネスコ世界遺産委員会の諮問機関であるイコモスによる評価結果がユネスコ世界遺産センターから通知されました。

※フランス・日本・ドイツ・アルゼンチン・ベルギー・インド・スイス

1. イコモスの評価結果

「ル・コルビュジエの建築作品」については、「記載」が適当との勧告がなされた。（詳細は別添参照）

（参考1）諮問機関による評価結果の4つの区分

- ① 記載（Inscription）：世界遺産一覧表に記載するもの。
- ② 情報照会（Referral）：追加情報の提出を求めた上で次回以降に再審議するもの。
- ③ 記載延期（Deferral）：より綿密な調査や推薦書の本質的な改定が必要なもの。推薦書の再提出後、約1年半をかけて再度諮問機関の審査を受ける必要がある。
- ④ 不記載（Not to inscribe）：記載にふさわしくないもの。（世界遺産委員会で不記載決議となった場合、例外的な場合を除き再推薦は不可。）

（参考2）イコモス ICOMOS (International Council on Monuments and Sites)（国際記念物遺跡会議）。文化財の保存、修復、再生などを行う国際非政府間組織（NGO）でユネスコ世界遺産委員会の諮問機関。本拠地はパリ。1964年設立。

2. 今後の予定

第40回世界遺産委員会（平成28年7月10日～20日、於：イスタンブール）において、イコモスの勧告を踏まえ、世界遺産一覧表への記載の可否が決定される。

なお、世界遺産委員会による決議は、諮問機関の勧告と同じ「記載」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載」の4区分によって行われる。

<担当> 文化庁文化財部記念物課

課長 加藤 弘樹

世界文化遺産室長 岡本 任弘

文化財調査官 下田 一太

世界文化遺産推薦係長 坂本 真樹

電話：03-5253-4111（代表）（内線 2877）

03-6734-2877（直通）

イコモスの評価結果及び勧告の概要（ル・コルビュジエの建築作品）

（他国の個別資産に係るものを除く）

① 顕著な普遍的価値について

7カ国・3つの大陸に所在する資産は、建築の歴史において初めての、半世紀以上にわたる、地球規模での国際的な取組みを示すものである。

17の構成資産は全体として、20世紀の社会・建築における根本的な問題の幾つかに対して傑出した回答を示した。全ての構成資産が新たなコンセプトを革新的な形で示し、地域を超えて顕著な影響を与え、全体として世界中に近代建築運動を広めた。近代建築運動は、多様さを内包しつつ、20世紀における重要かつ必要不可欠な社会文化的／歴史的な存在であり、21世紀の建築文化の広範にわたる基盤をなしている。近代建築運動は、1910年代から1960年代にかけて、現代社会の課題に答え、国際的な思想に関する場を与え、新たな建築のあり方を考案し、建築技術を近代化させて現代人の社会的・人間的に対して回答を示した。

② 完全性について

イコモスは構成資産全体の完全性が正当化されていると考える。個別の資産については多少の脆弱性が認められるものの、概ね良好な状況が確認される。

③ 真実性について

イコモスは構成資産の全体、そして個別の各資産においても一部を除けば真実性が認められると考える。

④ 比較研究について

イコモスは、比較研究によって構成資産の選択およびに世界遺産一覧表としての重要性が正当化されていると考える。

⑤ 評価基準の適用について

・基準（ii）について

イコモスはこの評価基準が全ての構成資産に対して正当化されていると考える。

・基準（vi）について

イコモスはこの評価基準が全ての構成資産に対して正当化されていると考える。

構成資産の選択とその方法は正当であると判断する。評価基準、OUVともにこれらの資産によって十分に表現されていると考える。

⑥ 資産に影響を与える要因について

イコモスは、資産に影響を与える主な脅威は、資産本体・緩衝地帯・周辺環境における開発圧力であると考えており、これは一部の資産について認められる。

⑦ 保存管理について（資産範囲、緩衝地帯（バッファ・ゾーン）、保護措置、管理運営）

- ・イコモスは、資産範囲及び緩衝地帯は適切であると考ええる。
- ・イコモスは、資産の保護措置は適切であるものの、緩衝地帯についてはいくつかの構成資産において強化すべきであると考ええる。
- ・イコモスは、保全状況は概して適切か良好であると考ええる。
- ・イコモスは、全体的な管理体制は適切であると考ええる。

⑧ 国立西洋美術館について

- ・前庭の植栽が真実性を減じている。
- ・耐震対策がしっかりとされている。
- ・緩衝地帯内外で何らかの開発事業が行われる場合には、眺望の観点からの影響評価が重要。
- ・「コルビュジエの作品であることを際立たせるため」の復元（自然光、前庭等）の実行の詳細について。
- ・特に国立西洋美術館については、世界遺産登録を強く支持するなど、地元コミュニティの積極的な参画が認められる。

⑨ 勧告

イコモスは、評価基準(ii)及び(vi)の下に「ル・コルビュジエの建築作品 - 近代建築運動への顕著な貢献」を世界遺産一覧表に記載することを勧告する。

イコモスは、締約国が以下を考慮することを併せて勧告する。

- ・全ての構成資産について、開発計画に対する遺産影響評価の手法を導入すること。
- ・全ての構成資産について、モニタリング指標を改善すること。
- ・シリアル全体について、合意された保存の手法と手順を進展させること。
- ・シリアル全体への影響の可能性との関わりの観点で、構成資産にかかる重大な開発計画について全締約国が理解することを可能にするため、「国際常設会議」をどのように改善できるかについて検討すること。

(別添)

- ・ シリアルに対する今後の拡張の手法，及び最終的な範囲について，「国際常設会議」からの提案を提出すること。
- ・ 第42回世界遺産委員会で議論するため，2018年12月1日までに上記の勧告内容に関する説明／進捗に関する保全状況報告書を提出すること。

イコモスは，もし必要であれば，この勧告に関して締約国と議論を行う用意と意志がある。

「ル・コルビュジェの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献―」の 世界遺産推薦について

1. 名 称

ル・コルビュジェの建築作品 ―近代建築運動への顕著な貢献―

2. 概 要

ル・コルビュジェ (Le Corbusier, 1887～1965) は、パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家。建築・都市計画のみならず絵画、彫刻、家具などの制作にも取り組み、小住宅から国際連合本部ビルの原案まで幅広い創作活動を展開した。合理的、機能的で明晰なデザイン原理を絵画、建築、都市等において追求し、20世紀の建築、都市計画に大きな影響を与えた。

本推薦は、世界各地に所在する彼の建築作品のうち、近代建築運動への顕著な貢献が見られる7カ国（フランス・日本・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド）に所在する17の資産を一括して世界遺産に登録しようとするものである。登録されれば大陸にまたがる初めての世界遺産となる。

3. 構成資産

【フランス（10資産）】

ラ・ロッシュ＝ジャンヌ邸、サヴォア邸と庭師小屋、ペサックの集合住宅、カップ・マルタンの休暇小屋、ポルト・モリトーの集合住宅、マルセイユのユニテ・ダビタシオン、ロンシャンの礼拝堂、ラ・トゥーレットの修道院、サン・ディエの工場、フィルミニの文化の家

【日本（1資産）】 国立西洋美術館

【ドイツ（1資産）】 ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅

【スイス（2資産）】 レマン湖畔の小さな家、イムブル・クラルテ

【ベルギー（1資産）】 ギエット邸

【アルゼンチン（1資産）】 クルチェット邸

【インド（1資産）】 チャンディガールのキャピトル・コンプレックス



ラ・ロッシュ＝ジャンヌ邸
(撮影：下田泰也)



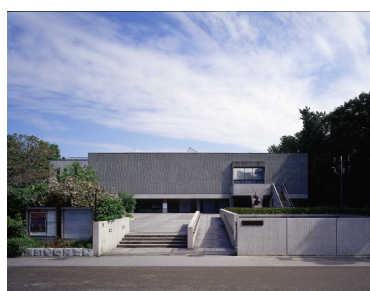
サヴォア邸と庭師小屋



マルセイユのユニテ・ダビタシオン
(撮影：下田泰也)



ロンシャンの礼拝堂
(撮影：下田泰也)



国立西洋美術館
(提供：国立西洋美術館)



チャンディガールの
キャピトル・コンプレックス

4. 評価基準

(ii) ル・コルビュジエの建築が全世界に与えた大きな影響力：

ある期間にわたる価値観の重要な交流を示す。ル・コルビュジエは、新しい建築の概念を広め、20世紀における世界中の建築に大きな影響を与えた。

(vi) 建築によるアイデア（思想）の具現化：

ル・コルビュジエの作品は「近代建築運動」という顕著な普遍的価値を有する思想と直接関連している。

5. 前回推薦からの変更点

当初推薦では、ル・コルビュジエという人物に主眼を当てていたが、イコモス勧告等を踏まえ、「近代建築運動への貢献」という点に説明の主眼を置き直した。これに伴い、構成資産についても、ル・コルビュジエの建築作品の中で近代建築運動への貢献が顕著に見られるものに絞りこんでいる。構成資産の変遷は下記の通り。

- ・当初の推薦（平成20年）：6か国22資産
- ・追加情報提出時（平成23年）：6か国19資産（当初推薦からフランスの2資産（クック邸、救世軍難民院）及びスイスの1資産（シュウオブ邸）を除外。）
- ・今次の推薦（平成27年）：7か国17資産（フランスに所在する1資産（スイス学生会館）及びスイスの2資産（ジャウル邸、ジャンヌレ邸）を除外。またインドの1資産（チャンディガールのキャピトル・コンプレックス）を追加。）

6. 関係年表

<当初推薦>

- 19年 9月 フランス政府から我が国に対し共同推薦の要請
同月 「国立西洋美術館（本館）」を我が国の暫定一覧表に記載
- 20年 2月 第1回推薦（6か国・22資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築と都市計画
10月 イコモスによる現地調査
- 21年 5月 イコモス勧告（記載延期）
6月 第33回世界遺産委員会（セビリア）（情報照会）

<追加情報の提出>

- 23年 1月 情報照会対応文書（実質的には改訂推薦書（6ヶ国・19資産））を提出
5月 イコモス勧告（不記載）
6月 第35回世界遺産委員会（パリ）（記載延期）

<今次推薦>

- 27年 1月 閣議了解を経て第2回推薦（7か国・17資産）
※推薦名称 ル・コルビュジエの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献
8月 イコモス現地調査
11月 イコモスとの意見交換
12月 イコモス中間報告
- 28年 5月 イコモス勧告
7月10日～20日 第40回世界遺産委員会（イスタンブール）

国立西洋美術館について

1. 概要

国立西洋美術館本館は、日本に所在する唯一のル・コルビュジエ設計による建築である。

実業家・松方幸次郎の美術品コレクション（絵画，彫刻等）のうち，パリに保管され，第二次世界大戦後にフランス政府に押収されたものについては，1953 年，その大半が日本国政府へ寄贈されることとなった。その際，西洋美術の変遷が学術的に日本の人々に伝わるような新美術館の建設が条件とされ，国立西洋美術館本館は，この条件を満たすために日本国政府が上野恩賜公園内に建設したものである。

設計者にはル・コルビュジエが選ばれ，建設に当たっては，ル・コルビュジエの下で学んだ前川國男，坂倉準三，吉阪隆正及び文部省管理局教育施設部工営課（当時）が設計補助並びに現場監理を行っている。着工は 1958 年 3 月，竣工は 1959 年 3 月である。

国立西洋美術館本館は，陸屋根，正方形の平面形状，らせん状の回廊，展示品の増加に伴い渦が大きくなるように増床できる平面計画等，ル・コルビュジエによる「無限発展美術館（Musée à croissance illimitée）」の構想をよく現した作品として評価されている。ピロティ（1 階部分を柱のみ残して外部とする形式），屋上庭園，斜路，自然光を利用した照明計画，モデュロール（人体寸法と黄金比を基にした寸法体系）等，ル・コルビュジエに特徴的な設計要素を随所に見せる点でも貴重であり，20 世紀を代表する世界的建築家のル・コルビュジエの代表的作品として，顕著な普遍的価値を有している。

2. 文化財指定等

平成 19 年 12 月 重要文化財（本館）

平成 21 年 7 月 登録記念物（園地）

3. 所在地

東京都台東区上野公園 7-7

（正面）



（展示室）



世界遺産について

1. 世界遺産条約（世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約）

(1) 条約の目的

文化遺産及び自然遺産を人類全体のための世界の遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存することが重要であるとの観点から、国際的な協力及び援助の体制を確立すること。

(2) 経緯

昭和47（1972）年 第17回ユネスコ総会において採択

昭和50（1975）年 条約発効

平成4（1992）年 我が国において条約締結のための国会承認及び条約発効

平成27（2015）年 7月現在で締結国数191カ国

2. 世界遺産一覧表への記載プロセス

① 各締約国は、世界遺産一覧表への記載推薦の候補を記載した「暫定一覧表」を提出する。

② 各締約国は、「暫定一覧表」の記載物件のうち、「世界遺産一覧表」に記載する準備が整ったものを世界遺産委員会へ推薦する。これに対し、世界遺産委員会が、「世界遺産一覧表」への記載の可否を決定する。

3. 世界遺産の総数

平成27年7月8日現在で 1031件（文化遺産802件、自然遺産197件、複合遺産32件）

4. 我が国の世界遺産一覧表記載物件（文化遺産15件、自然遺産4件）

	記載物件名	所在地	暫定一覧表記載年	世界遺産一覧表推薦年	世界遺産一覧表記載年	区分
1	法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	4年	4年	5年12月	文化
2	姫路城	兵庫県	"	"	"	文化
3	屋久島	鹿児島県	"	"	"	自然
4	白神山地	青森県、秋田県	"	"	"	自然
5	古都京都の文化財 （京都市、宇治市、大津市）	京都府、滋賀県	"	5年	6年12月	文化
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県、富山県	"	6年	7年12月	文化
7	原爆ドーム	広島県	7年	7年	8年12月	文化
8	厳島神社	広島県	4年	"	"	文化
9	古都奈良の文化財	奈良県	"	9年	10年12月	文化
10	日光の社寺	栃木県	"	10年	11年12月	文化
11	琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県	"	11年	12年12月	文化
12	紀伊山地の霊場と参詣道	三重県、奈良県、和歌山県	13年	15年 1月	16年 7月	文化
13	知床	北海道	16年	16年 1月	17年 7月	自然
14	石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	13年	18年 1月	19年 7月	文化
15	小笠原諸島	東京都	19年	22年 1月	23年 6月	自然
16	平泉-仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群-	岩手県	13年	18年12月 22年 1月	23年 6月	文化
17	富士山-信仰の対象と芸術の源泉	山梨県、静岡県	19年	24年 1月	25年 6月	文化
18	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	19年	25年 1月	26年 6月	文化
19	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、鹿児島県、山口県、岩手県、静岡県	21年	26年 1月	27年 7月	文化

5. 我が国の暫定一覧表記載物件（文化遺産10件、自然遺産なし）

〔平成4年〕

①「古都鎌倉の寺院・神社ほか」（神奈川県）

②「彦根城」（滋賀県）

〔平成19年〕

③「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」（奈良県）

④「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」（長崎県・熊本県）→（27年推薦後、28年取下げ）

⑤「国立西洋美術館（本館）」（東京都）→（平成27年推薦）

〔平成21年〕

⑥「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」（北海道・青森県・岩手県・秋田県）

⑦「宗像・沖ノ島と関連遺産群」（福岡県）→（平成28年推薦）

〔平成22年〕

⑧「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」（新潟県）

⑨「百舌鳥・古市古墳群」（大阪府）

〔平成24年〕

⑩「平泉-仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群-（拡張）」（岩手県）